

緊急宣言

総力をあげて子どもを守りぬけ！

幼い児童が被害者になる事件に接して、痛ましくまた無念な気持ちでいっぱい
です。無抵抗な子どもが被害に遭うことに怒りを感じます。

二度と悲しみを繰り返さないためにも、今こそ総力をあげて私たち大人が子ども
を守りぬいていこうではありませんか！

市民防犯ボランティアとして10年間、日本ガーディアン・エンジェルスが展
開している「安全セミナー」の内容を一部ご紹介いたしますので、是非参考に
していただきたくお願い申し上げます。

平成17年12月12日

特定非営利活動法人

日本ガーディアン・エンジェルス

【大人の方へ】

- 1 子どもを巻き込む犯罪の多くは未然に防ぐことができます
犯罪者にきっかけを与えないようにしましょう
- 2 犯罪者にきっかけを与えないためには、地域防犯力と個人防犯力を高めます
- 3 地域防犯力とは、人の目が隅々まで行きわたり、子どもがひとりにならない環境づ
くりです。何か起きたときに子どもが大人に伝えやすい環境を作ります
- 4 地域防犯力を高めるには、防犯カメラの設置や街灯の増設など「物を使う方法」と、
防犯パトロールや声かけ・あいさつ運動など「人の力を使う方法」があります
- 5 個人防犯力とは、子ども自身が持つ五感を引き出して生活に役立てることで
- 6 個人防犯力を高めるには、普段から子どもに「こんな時、あなただったらどうす
る？」と考えさせるシミュレーションを繰り返し行います

【子どもに伝えていただきたい事】

子どもには、世の中が危険なことばかりだと思わせないでください。社会や大人に対し
て不信感を持たせない配慮が必要です。どうしようもない場合もありますが、気をつけ
ることで回避できる場合が多いのです

7 子どもの防犯力を高める方法

(1) 危険を察知する力をつける

1) 目と耳の力を鍛えること

- ・まちや人に関心を持ち観察する
- ・普段と違う様子に敏感になる

(例) 見たことがない人や車、新しい建物、人が集まっているなど

- ・音や声に敏感になる
- ・普段と違う様子に気づいたら近づかない
- ・気づいたことはすぐに大人に伝える

(2) 間合いをとる(距離をあける)

- ・親しくない人とは、必ず腕の長さ以上離れる
- ・普段と違う様子には近づきすぎないこと

例) 見たことがない人や車、エンジンがかければなしの車

- ・危ない場所や一人になる場所に行かない

例) 工事現場、ビルの屋上、人のいない公園、河川や山林など

例) エレベータで知らない人と二人きりになった場合は時間をずらす

(3) 社会のルールを守る

- ・交通ルールはもちろんのこと、社会の基本的ルールを教える

(4) 伝達能力を高める

- ・事実を正確に伝える練習をする

- ・大声を上げて特定した人にジェスチャーをまじえて伝える

自分が今どうなっているか、どうしてほしいか、あなたに助けてほしい!

例) 助けて~! 赤い服をきたおばさん。この人はお父さんじゃない!

連れていかれそうです。すぐに110番してください!

- ・防犯ベルなど防犯グッズをいつでも使えるように準備しておく

例) 一人にいる時は、防犯ベルをいつも片手に持ち気をつけていることをアピール

(5) すぐにその場を離れる、逃げる行動ができる

- ・大声をあげながら走る

- ・逃げるための護身術

例) つかまれた手を抜く、はがい絞めから逃れる技など

- ・相手の言いなりにならない

例) 静かにしろ 静かにしないで逃げる

- 例) 言うことを聞け 言うことを聞かないで逃げる
- ・子どもは大人の力にはかなわないので、逃げるが一番!と教える
 - 噛み付く、蹴るは効果があるときないときがあり、相手を逆上させる危険性があるので注意
- 8 万が一、車に連れ込まれたなど逃げられない状態になった場合には
- 1) あああの法則を思い出す
 - 【あ】わてず、【あ】せらず、【あ】たまを使う
 - ・相手の隙(すき)をついて離れる場面をつくる
 - 例) 生理的な欲求が効果的である
 - (おしっこが漏れる、ウンチしたい、お腹減った、ゲボが出そうなど)
 - ・コンビニなどできるだけ人のいる場所に誘う 店員の後ろか横までたどりつく

「最大の護身術」とは、「危険を察知して近寄らない」こと、

「逃げる」ことです!

大人も子どもも、人やまちの様子をいつも気にする習慣をつけましょう!